慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ベンチャー企業におけるビジョン共有の重要性 - 企業の成長モデルから見たその不完全さについて -
Sub Title	
Author	新井, 豪一郎(Arai, Gouichirou) 高木, 晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2002
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2002年度経営学 第1746号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1746

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	高木研究会	学籍番号	80128066	氏名	新井　豪一郎

（論文題名）

ベンチャー企業におけるビジョン共有の重要性
ー企業の成長モデルから見たその不完全さについてー

（内容の要旨）

よく「ベンチャー企業ではビジョンの組織内共有をすることで組織的経営課題を解決できる」と言うことを聞く。このことは感覚として納得できるし、「ベンチャー企業にビジョンなんて要らない」、という人も余りいないだろう。「ベンチャー企業に限らず、企業経営において組織内でビジョンを共有することは企業の業績の妨げにはならない。更に、ビジョンを共有することが競争を勝つための重要な条件の一つだ」という論調の文献は多い。ビジョンを共有しており、かつ業績が良い企業の事例を取り扱った文献も多い。

しかし、どの文献もビジョンを組織内で共有することが、企業の業績を支えることや組織的経営課題の解決をする論理的な理由を示していない。「ビジョンを組織の中で共有すると、組織マネジメントがうまくいく。経営全体もうまくいく。何故かは分からない。しかし多くの事例があるのだ」ということだ。これでは、「鼻にニキビができると恋人にふられる」、「家を出る時に左足から出ると、その日いいことがある」というような論理的理由付けのないジンクスと同じである。

私は、将来起業して経営者になりたいと常々思っている。やるからには成功したい。そのため、ベンチャー企業経営の組織的な経営課題をどのように解決するかということに強い興味を持っている。従って、このジンクスのような「ベンチャー企業ではビジョンの組織内共有をすることで組織的経営課題を解決できる」とよく言われている主張が論理的に正しいものなのか否かを検討することにした。

検討の方法としては、ベンチャー企業を経営する中でおこる組織的な経営課題を導き出し、その原因をさぐり、その原因に対してどのような組織マネジメントが解決策となるのかを分析する。経営課題の原因探求と、解決策の模索には主に因果関係図を使い、分析を行った。